

にいみなんきち
新美南吉 『かにのしょうばい』より

『かにのしょうばい(一)』をよみながら、

は・わ・が・を・お・へ・えのあうじを()のなか
にかきましよう。

かに かんが
蟹がいろいろ考えたあげく、とこや()はじめました。蟹の
かんが
考えとしてはおおできでありません。

かに
ところで、蟹は、
「とこやというしょうばい() (、たいへんひまなものだな。」

おも もっ
と思いました。と申しますのは、ひとりもお客さんがこないからで
あります。

かに
そこで、蟹のとこやは、はさみ()もって海っはたにやっ
ていきました。そこにはたこ() (ひるねをしていました。

「もしもし、たこさん。」
かに
と蟹はよびかけました。

たこはめ（ ）さまして、

「なんだ。」

といました。

「どこやですが、ごようはありませんか。」

「よくごらんよ。わたしの頭あたまに毛けがあるかどうか。」

蟹かにはたこの頭あたま（ ）よくみました。なるほど毛けはひとすじもな

く、つるんごでありました。いくら蟹かにがじょうずなところやでも、毛けの

ない頭あたま（ ）かることはできません。

こたえ

蟹かにがいろいろ 考かんえたあげく、とこやを はじめました。蟹かにの 考かんえとしてはおおできでありません。

ところで、蟹かには、

「とこやというしょうばいは、たいへんひまなものだな。」

とおも ました。と申もうしますのは、ひとりもお客きやくさんがこないからで あります。

そこで、蟹かにのとこやさんは、はさみを もって海うみっぱたにやっ て きました。そこにはたこが ひるねをしていました。

「もしもし、たこさん。」

と蟹かにはよびかけました。

たこはめを ちまして、

「なんだ。」

といました。

「とこやですが、ごようはありませんか。」

「よくごらんよ。わたしの頭あたまに毛けがあるかどうか。」

蟹かにはたこの頭あたま（を）よくみました。なるほど毛けはひとすじもなく、つるんごでありました。いくら蟹かにがじょうずなどこやでも、毛けの

ない頭あたま（を）かることはできません